

ウラナミジャノメの室内産卵の試み

八 木 弘

本種は神奈川県以西、四国、九州、対馬、屋久島に産し暖地では年2回の発生(6月~7月、8月~9月)。分布の北限に近い地域や山地では年1回(7月~8月)にあらわれるといわれている。

当地兵庫県相生市では(6月下旬~7月中旬)の間にあらわれ、年1回の発生である。同じ県内でも2化するところもあると聞く。当地での発生時期がそれほどおくれているともいえないし、亦寒冷地とも思われないのになぜ2化を見ないのか?

蝶友H氏は其の間の実状究明のため、幼虫生態の観察をしてみたいので、メスを採集し、産卵させてほしいとの依頼をうけ、産卵を試みた。其の観察の一端を記す。

1981年7月2日、メス1頭を採集し、食草のススキを植えた植木鉢に4本の支柱を立て、白色の捕虫ネットをかけ其の中にメス蝶をはなつ。よく観察すると、羽化間もないのか腹部が小さい。交尾していないのではないかとの疑問をもつ。翌3日、オス1頭を採集し夕方同じネット内にはなつ。

翌朝(4日)、椅子に坐りテーブルの上に置いたネット掛けの蝶を眺めていると、ネットに止っているメスへ、食草に止っていたオスが、サッと寄りそい2、3度羽ばたいた瞬間、すでに交尾している。時計を見ると8時30分である。

何時まで交尾するかと椅子から離れず眺めていると約60分間交尾を続けた。

交尾後、約31時間後の6日、15時30分頃より産卵を始めた。其の日の産卵数、13卵。翌7日15卵産卵した時点の18時、再交尾を行った。交尾時間は、実に2時間余の長きに及ぶ。

8日の40卵を最高に、其の後、毎日20卵前後の産卵を続け、産卵を始めてから10日間に、210余卵の産卵をみた。

産卵の状況

夕方15時30分頃より~19時の間に産卵を行う様である。(朝夕数卵を産卵した日が1日あった)産卵し始めると、2~3分間かくで産卵が行われ、4~5卵産みつけると10~15分は休止し、再び産卵を繰かえす。

産卵の場所

食草に産みつけられたのは15%程度で、85%は捕虫ネットの網目に産みつけた。ネットにつかまっただけで産卵がし易い様であった。

給飼の方法

産卵させるためには、2週間は蝶が弱らない様飼育せねばならないので、給飼はかかせない。1日に午前午後の2回は必要である。

今回試みた方法は、霧吹きで水を捕虫ネットの上から吹きつけること。蝶が吸蜜したい時は、早速ストローを伸し、ネット目についた水滴を吸い始めるので、小さく切った綿に砂糖水か果実汁を充分ひたし、ピンセットで吸水しているところへ当がてやると、其のまゝ吸飼するので簡単であった。

(参考文献)

白水隆・黒子浩、共著 標準原色図鑑、第1巻

HIROSI YAGI 〒678 相生市

一宮町で採集した ゼフィルス数種の記録

尾 崎 勇

兵庫県宍粟郡一宮町福中に於てヒロオビミドリシジミが採集されているので報告しておく。また同地でウラミスジシジミ、ミズナラよりジョウザンミドリシジミ、サクラよりメスアカミドリシジミの卵を採集し羽化させているので併せて報告しておく。

採集記録を御提供下さった小柳二三夫氏にお礼申し上げます。採集記録は次の通りである。

〈採集記録〉

ヒロオビミドリシジミ…2♂14-VI-1981 小柳二三夫
ウラミスジシジミ…2♂1♀ 20-V-1980(羽化) 尾崎 勇
ジョウザンミドリシジミ…1♂ 23-V-1980(羽化) 〃
メスアカミドリシジミ…5♂7♀ 5-V-1980(羽化) 〃

Isamu Ozaki 〒673 明石市